

2018.11.10～11 両教組合同教研集会（公害・環境問題と教育）
「放射線のホント」批判
共同討議者 三陸の海・岩手の会 永田文夫

知るといふ復興支援があります。

放射線の の ホント



2018年10月 復興庁発行のこの本が盛岡市内の中学校生徒へ配布されたとの情報がありました。内容に誤りなど不適切と思われる問題があり、本文にコメントを書き込んでみました。
*黄色のマーカーは問題だと思う箇所です。

福島原発事故を巡って国連人権理事会は、放射線量が高い地域への子どもや女性の帰還をやめるよう日本に求める声明を発表しました。国連人権理事会のトゥンジャク特別報告者は25日、福島第一原発の事故の後、日本政府が避難指示の解除要件の一つにしている「年間20ミリシーベルト以下」という被ばく線量について、事故の前に安全とされていた「年間1ミリシーベルト以下」にすべきだと述べました。そのうえで、子どもや出産年齢の女性について、年間1ミリシーベルトを超える地域への帰還をやめるよう日本政府に要請しました。これに対して日本は、「帰還は強制しておらず、放射線量の基準は国際放射線防護委員会の勧告に基づくものだ」と反論しました。また、「不正確な情報に基づいた声明が発表されることで、被災地の風評被害が助長されかねない」として懸念を示しました。(2018.10.26テレビ朝日) トゥンジャク特別報告者らは「我々は今後、福島で生まれ育つかもかもしれない子どもたちの健康について特に心配している。」と述べています。

あれから7年。

未曾有の大震災と原子力災害から7年の月日が経ち、被害にあった地域も、徐々に復興が進んできました。

しかし、今なお新たな被害も発生しています。それは、**偏見・差別や風評被害**です。

「福島から避難してきた人間からは放射線がうつる」
そういった**知識不足**からいじめにあう子がいます。

「東京電力福島第一原子力発電所の近くに住んでいたので、将来元気な赤ちゃんが産めないのではないか」
そういった**思い込み**から悩んでいる女の子がいます。

「福島の食べ物汚染されているから食べない」
そういった**誤解**から苦しんでいる農家の方がいます。

でも、そんな人々を苦しめているのは放射線そのものではなく、**知識不足**から来る**思い込みや誤解**です。

復興支援に行けなくても、苦しんでいる人たちのちからになれる方法があります。それは知ることです。

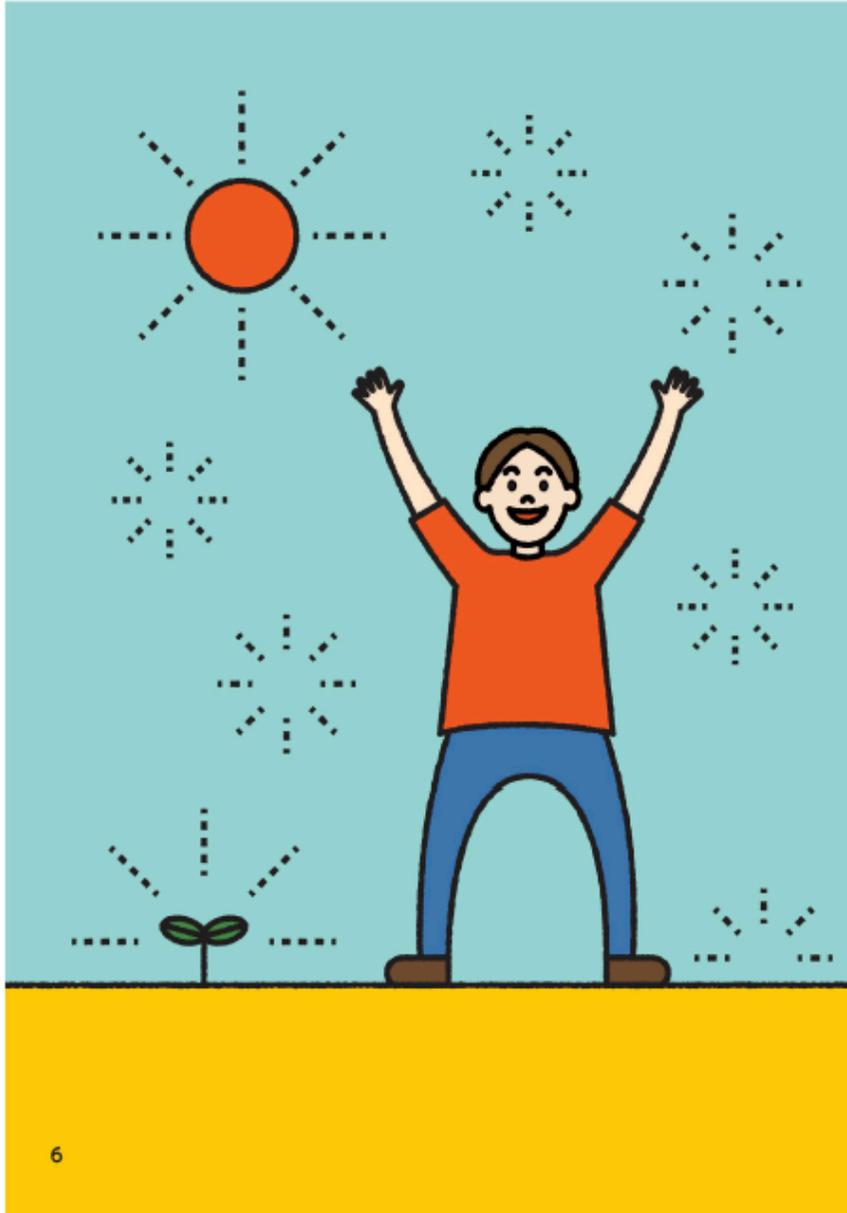
正しい情報を知り、自分の頭で考え、そして行動する。

それこそが子どもたちの明るい未来を築くための方法だと、私たちは信じています。

まずはこの冊子に目を通してみてください。
そして機会があれば福島を訪れ、**食べ物を味わい**、地元の方と言葉を交わしてみてください。

きっと、想像以上の笑顔が、みなさんを迎えてくれるはずです。
さあ、次の未来へ、一緒に。

上記テレビ朝日の報道、国連人権理事会委員の日本政府への要請とそれに対する日本政府の対応、そしてこの「あれから7年」の文章を比較してみてください。以下、この本の内容が「正しい情報」かどうか自分の頭で考えてみましょう。



この世の生物は自然放射線を常に受け進化適応してきました。しかし余計な被ばくは避けなければいけません。X線撮影の学校集団検診は取りやめになりました。またCTスキャンは諸外国での使用は慎重に行われていますが、日本は世界でも突出して多く使用され医療費ばくや過剰診療が問題化しています。

放射線はゼロにできないの？

ふだんから身の回りにあります。

空気や身体の中にもありますし、

エックス線撮影やCTスキャンでも使われています。

ちなみに、日本人が受ける年間の放射線量は平均で、

自然界から2.1ミリシーベルト、医療行為から3.9ミリシーベルトです。

なので、身の回りからはゼロにはできません。



放射線はうつりません。

ウイルスとは違いますし、ばい菌のように増殖もしません。

放射線は人から人へと移りませんが、放射性物質に汚染された微粒子を付着した衣類から近くの人へ飛散などにより移ることがあります。また呼吸などにより体内へ取り込まれ被ばくすることが考えられます。汚染された人の排泄物などにより汚染が広まることも考えられます。汚染地で除染されていない場所への出入りは慎重に汚染を避けなければいけません。場合により衣服の除染が必要になる場合があります。

放射線は人から人にうつるの？





放射線の影響は
生まれてくる子どもや孫に遺伝するの？

遺伝しません。

放射線を受けたことによる

ヒトの**遺伝性影響を示す根拠は報告されていません。**

また、事故の時、お母さんのおなかの中にいた子の

先天的障害の発生率なども、**他の地域の子とも変わりません。**

妊産婦はX線撮影やCTスキャンは極力行わないことになっています。国連人権理事会委員は出産年齢の女性にはできるだけ被ばくをさけるように日本政府に勧告しています。これは遺伝を担う染色体やその情報基であるDNAの結合等が放射線により損なわれることにより、赤ちゃんの体に変異を与える可能性があるからです。放射線を使用し植物の突然変異による品種改良を試みるガンマフィールドがあります。この文「遺伝しません」は「正しい情報」ではありません。



放射線を受けると身体に悪いの？

放射線の健康への影響は

ある・なしではなく「量」が問題です。

ふだんの身の回りの量はわずかなので、健康への影響はありません。

放射線は見えませんが、簡単に測ることができます。

放射線の影響は線量が増えると確率的に上昇します。米科学アカデミーは低線量被ばく者のデータを調べ10ミリシーベルトのCT検査被ばくで千人に一人の割合でガンを発症する危険があると公表しました。「放射線は微量でも危険」です。細胞分裂が盛んな子供、胎児は影響が大きいのです。放射線のうち内部被ばくすると影響が大きいアルファ線やベータ線は飛距離が短く測定は困難です、簡単に測定できません、



仮に野菜不足や塩分の取りすぎが発がんリスクを高めるとしても、放射線の遺伝的影響と比較できません。野菜不足や塩分の取りすぎが遺伝的影響をもたらすわけではありません。リスクはさまざまな側面から総合的に考慮しなければいけません。

米科学アカデミーは低線量被ばく者のデータを総合し10ミリシーベルトのCT検査被ばくで1000人に一人の割合でガンを発症する危険があると公表しました。100ミリシーベルトでは100人に一人、200ミリシーベルトでは100人に二人のガン発症リスクです。野菜不足や塩分の取りすぎによる統計的なガン発症の根拠論文は見当たりません。

どれくらいの量なら健康に影響があるの？

100ミリシーベルト以上被ばくすると

がんで死亡するリスクが上がると言われていますが、

100~200ミリシーベルトの被ばくでの

発がんリスクの増加は、

野菜不足や塩分の取りすぎと

同じくらいです。

ちなみに100ミリシーベルトは、航空機で東京・ニューヨーク間を

約500~1000往復した場合の被ばくに相当します。

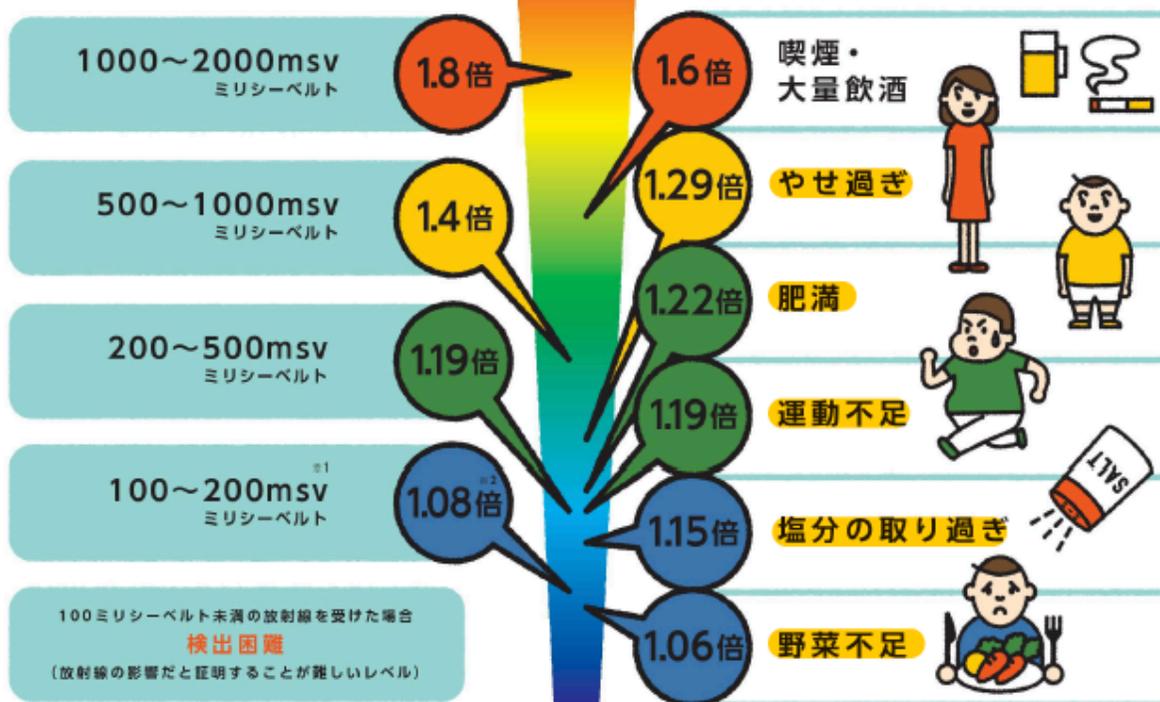
米科学アカデミーNAS発表の国際調査BEIRVII新聞報道と実際の論文は以下にあります。
<http://sanriku.my.coocan.jp/img026.pdf>
<https://www.nap.edu/catalog/11340/health-risks-from-exposure-to-low-levels-of-ionizing-radiation>

【がんのリスクとその要因(放射線や生活習慣病によるもの)】

＼がんのリスク増大／

放射線によるがんのリスク

生活習慣によるがんのリスク



喫煙による発がんの原因は、タバコに含まれるフェリチンが肺に付着しそこに自然界にあるラジウム（アルファ線放出）を高濃度に濃縮し周辺の細胞を放射しDNAに作用しがん化すると結論付けた研究が岡山大で発表されています。

国立がん研究センターの下記研究の評価一覧の解説には「これまでに研究班が実施した評価では、喫煙、飲酒のリスクについては多くのがんで、また、BMIや感染については一部のがんで、その関連の確実性が示されました。その一方、食事要因についてはほとんどの食品、栄養素において未だデータ不十分という評価が並び、塩、緑茶、コーヒーなどの一部で関連が示されたにとどまりました。」とありまだ検出中という段階であることがわかりました。

※1: 100 ミリシーベルトは、原発事故東京・ニューヨーク圏年初500~1000被曝した場合の値で、または、1キログラムあたり100ベクレルの食品を約7700kg摂取した場合の値(注に参照)

※2: 放射線の値が小さく、食中の生活習慣病のない集団と比べてがんリスクが何倍高いかという数値

出典: 国立がん研究センターウェブサイトを基に整理作成

出典: 国立がん研究センターとあり調べてみました。「科学的根拠に基づくがんリスク評価とがん予防ガイドライン提言に関する研究」がんのリスク・予防要因 評価一覧 以下にありました。
https://epi.ncc.go.jp/files/02_can_prev/matrix_170801JP.pdf 野菜は胃がん(可能性あり)、食道がん(ほぼ確実)、他のがんは(データ不十分)、食塩・塩蔵食品は胃がん(ほぼ確実) 他のがんはデータなしでした。いずれも(確実)ではなく、上表のような倍率数値はありませんでした。どのようにして求めた数値なのでしょう。



福島県では原発事故時子どもだった人たちから小児甲状腺がんの多発が報じられています。
2018年6月で
確定167人、疑いを含めると204人

低線量被ばくの人体影響はすぐには現れません。何年か経過し現れてきます。そのため因果関係の証明はとても難しいことです。

原子力推進側はそれをいいことに推進してきました。今も因果関係を認めようとしません。

チェルノブイリ原発事故でも放射線と小児甲状腺がんの因果関係が国際的に認められるまでに10年ほどかかりました。

福島原発事故の翌2012年以降生まれた子ども達の甲状腺がん発生を調べ、比較することにより原発事故時甲状腺に濃縮したヨウ素131（半減期8日）によるがんであることが証明できるのですが、行われていないのでしょうか。

（チェルノブイリではこの調査結果が決めてになったようです。）

健康に影響が出たとは証明されていません。

周辺の人々が受けた放射線量に関する調査などの結果、福島県での被ばく線量は極めて限られており、

東京電力福島第一原子力発電所の事故の放射線で、
周辺の人々の健康に影響はなかったの？

東京電力福島第一原子力発電所の事故の放射線で、将来的に病気の人が出てくる心配はないの？

原子放射線の影響に関する国連科学委員会の報告書では、

- ・亡くなったり、重い症状となったり、
- ・髪の毛が抜けたりした人はいない
- ・今後のがんの増加も予想されない
- ・チェルノブイリ原発事故のような放射線による多数の甲状腺がんの発生を福島県では考える必要はない

と評価されています。

事故により放出された放射性物質の体内取り込みは、風向きや風速など気象条件、そして放射能の雲が通り過ぎた時、建物の外にいたかどうかなどにより異なります。

国連科学委員会 (UNSCEAR) 2016年白書に東電福島第一原発事故後の小児甲状腺がんの多発を否定する検討結果が報告されています。

世界保健機関 (WHO) の元アドバイザーで放射線生物学者のキース・ペーヴァーストック博士が2014年11月20日、外国人特派員協会で記者会見を行い、

国連科学委員会 (UNSCEAR) 2013年報告書について、科学的ではないとの考えを示した。また原子力産業との関係の強い委員が占めている同委員会は解体すべきだと厳しく断じた。・・・博士は、「同報告書はタイムリー、透明性に欠け、包括的でなく、利権から独立しておらず、科学的根拠にもとづいたリスク評価の基本的要件を満たしていない」と断定。「科学的団体が自らの知見をこのような形で偽って伝えるのは許し難い。」と厳しく批判したうえで、「現在のUNSCEAR委員会は、解体されるべきである」と結論づけた。(OurPlanetより)

東京電力福島第一原子力発電所の事故は、チェルノブイリと同じくらいの規模だったの？

大きく2つ違うところがあり、

- ・ 空気中に放出された放射性物質の量は7分の1でした。
- ・ 避難指示や出荷制限など事故後の速やかな対応によって、身体の中に取り込まれた量もずっと少なかったです。



食品中の放射性物質に関する基準 単位:ベクレル/kg

| | 日本 | EU | アメリカ | コーデックス |
|-------|-----|-----------|---------|------------|
| 飲料水 | 10 | 飲料水 1000 | | |
| 牛乳 | 50 | 乳製品 1000 | | |
| 乳児用食品 | 50 | 乳児用食品 400 | | 乳児用食品 1000 |
| 一般食品 | 100 | 一般食品 1250 | 食品 1200 | 一般食品 1000 |



出典：放射性物質汚染対処基本方針付添
 ※上記における基準値は、検出限界を一定レベル以下にするためのものであり、必ずしも安全と危険の境界と見做すものではない。
 ※コーデックス：消費者の健康の保護、食品の公正な貿易の確保等を目的とし、国際食品規格委員会（FAO）及び世界保健機関（WHO）により
 設立された国際的な政府間組織、国際食品規格（コーデックス規格）の策定等を行っている。（設置年：1963年創設、2019年2月現在）

左の表の数値は放射性セシウムの食品基準と思われます。EUやアメリカ、コーデックスは日本と比較すると高い値ですが、この3つの連合国や国や委員会の数値は原子力事故直後などの非常事態における食品基準数値であり、平常時の日本の基準と比較できません。これは日本は世界でも最も厳しい基準を設定しているように見せかける、比較表であり意図的であることがわかります。これがこの本のねらい「正しい知識」を知らせることなのでしょうか。ごまかしはいけません。

私たちがふだん口にしている食べ物
 安心して食べていいの？

日本は世界で最も厳しいレベルの
 基準を設定して食品や飲料水の
 検査をしており、基準を超えた場合は、
 売り場に出ないようになっています。
 福島県では現在、基準を超えているものはほとんどありません。

「平常」時の飲料水放射性セシウム基準値は1リットル当たり、EU 8.7ベクレル、米国4.2ベクレルです（セシウム134と137が同量ずつの場合）。
 （「放射線のホント」廃刊を求める署名から）

1ページに掲載した国連人権委員会の声明をご覧ください。
今まで年1ミリシーベルトまでの線量限度だったのですが、20ミリシーベルトまで基準を緩め故郷へ帰還させようとしているのです。23ページ「日本は世界で最も厳しい基準を設定している」とは真逆で世界で最も緩い線量限度基準を設定し人々を帰還させようとしているのです。

東京電力福島第一原子力発電所周辺地域の人々は
今どうしているの？

福島県では約190万人の人々が通常の生活を送っています。

また、県全体の面積の2・7%まで避難指示区域が縮小し、

ふるさとに帰った人たちにも

日常の暮らしが戻りつつあります。



みなさんは、この冊子を読んでどう思いましたか？

福島産のモモやコメをお店で買うだけでも、福島から引越して来た家族に明るく声をかけるだけでも、福島に桜やお祭りを楽しみに家族で出かけるだけでも、この冊子の内容を誰かに伝えるだけでも、たったそれだけで、復興支援になるんです。

そして子どもたちが大人になった時に、この冊子が必要なくなっていること。それが、私たちの一番の願いです。

そんな未来へ、ともに歩んで行きましょう。

「この冊子の作成にあたり、お話を聞いた先生」

- 早野 麗五 国立大学法人 東京大学 名誉教授
- 高村 祥 国立大学法人 長崎大学 原爆後援会事務局 国際保健医療福祉学部研究科教授
- 神田 裕子 国立研究開発法人 原子力科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所 放射線防護情報統合センター センター長
- 越智 小枝 福島中央病院 内科 文藝勲章受賞者
- 一ノ瀬 正樹 国立大学法人 東京大学 大学院人文社会学系研究科 教授
- 朝沼 博 学校法人 立命館大学 学術総合研究機構 専任教授
- 野内 道彦 フジエム・デザイン・インテリジェンス
- 熊坂 仁美 〈著〉S.M.S. 代表取締役
- 関奈央子 名なくじ出版
- 池田 伸之 〈著〉ジェイティビーグループ本社 国内事業本部 観光戦略部長

この冊子は「風評払拭・リスクコミュニケーション強化戦略」を基に作成されています。次のホームページで詳しくご覧いただけます。

<http://www.fukko-pr.reconstruction.go.jp/2017/senryaku/index.html>



放射線に関する詳しい情報は、「放射線リスクに関する基礎的情報」をご覧ください。

<http://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat1/sub-cat1-1/20140603102608.html>



この冊子や「風評払拭・リスクコミュニケーション強化戦略」に関するご意見はこちらまで info-senryaku@cas.go.jp

発行：復興庁 平成30年3月

たとえば、放射性物質のセシウムだけが問題になっていますが、放射性のストロンチウム90（半減期29年）については食品基準もありませんし、食品中の濃度はほとんど情報が公開されていません。この物質は大気にはあまり放出されなかったようですが、海洋へは汚染水とともに大量に放出されました。魚介類に濃縮していないか心配です。ストロンチウムは体に入ったなら、セシウムのように出ていかず、骨に濃縮し排出されません。食物連鎖で人の骨に濃縮し放射線を出し続け白血病等の原因になります。国は本当のことを知らせようとしておりません。人々や環境を守る放射性物質の環境基準もありません。

本当のことを情報公開し、判断を人々に委ねるようにすることが民主主義のありかたではないでしょうか。教育の場でこのような間違った内容の本を配布することに疑念を持ちコメントを書き込んでみました。

Walk together for the future.

現在の状況をごまかしていると未来の展望は暗い
です。未来のためには現在を真っ当に歩むことが
大切ではないでしょうか。